11 様々な取り組みの継承が地域を動かす!!

【石室（いしむろ）集落協定：唐津市鎮西町】

【取組概要】

〇石室地区有害鳥獣被害対策協議会を設置し関係機関全体でいのしし対策を実施。
〇高齢化に対応した高収益作物の生産のため石室野菜省力化部会を発足。

地域の現状

当地区は、唐津市北西部の棚田地域。県内でも最初にイノシシ捕獲班が設置された集落で鳥獣被害対策に集落の意識は高い。

集落の伝統行事亥の子祭（大綱引き）を継承するなど何事も集落ぐるみで考えるまとまりのよい集落。

協定の概要(R5)

1．取組面積　30.1ha
（田　30ha 畑　ha）

2．交付金額　558.8万円
個人配分　60%
共同取組　40%

3．協定参加者　56人
農業者　56人

交付金はこんなことに活用しています！

農道・水路管理費
鳥獣被害対策費

取組経緯

ステップ１　取り組み開始のきっかけ、開始時の苦労点

平成１０，１１年ころまでイノシシ被害はほとんどなかったが平成１４年ころから被害がではじめた。
自分たちのところは自分たちで守るという意識づけをするため集落全体でイノシシのことを徹底的に勉強した。
平成２５年４月に県内でも先駆けて捕獲班を設置。現在の捕獲体制（免許所持者３名、補助者２４名）。

ステップ２　創意工夫した点

イノシシの対策をするためには生態から理解する必要があるとの考えから、先進地研修や勉強会を繰り返し集落の人間全員でイノシシの習性の勉強を行うとともに情報共有を図った。
石室地区有害鳥獣被害対策協議会を設置（平成２３年４月）し行政、JAとも連携し対策を強化。
必要に応じて暗視カメラの設置や、箱わなにセンサーを設置するなど捕獲の効率UPに努めている。

ステップ３　取り組みによる変化と今後の課題

いのしし対策は集落一人一人が気にかけて行わなければ効果が薄れるという認識が生まれた結果、対策の効果も上がってきている。
獣害対策を行う上で重要な荒廃農地をださないようにするためには次世代が受け継ぎやすくするための条件整備が必要。
そのために機械利用組合の拡充や高収益野菜の栽培の確立が今後の課題となる。

【取り組みによる効果】

獣害対策の意識が高まり結果多くの農作物が守られ次世代に引き継ぐ条件整備の一助となった。

【協定代表者から一言】

次世代に農地を引き継いで行くためには機械化等にも対応した条件整備が大切。そのためにも大特（農耕用）免許を取りやすくして欲しい。

石室野菜省力化部会圃場

箱わなの設置状況